

近ごろ、男性のおしゃれぶりに目を覚ます。コサージュにネックレス、ピアスなどアクセサリーを身に付け、スカートなど女性物の服を着る。そんな華やかに着飾る男性を「装飾男子」と呼ぶという。

恋愛に対して受け身な男性「草食男子」が流行した昨年の冬ごろから、よく聞かれるようになった。男性ファッション誌が「草食」をヒントに命名したといわれている。今年の秋冬ファッションが店頭に並び始めた9月初旬、装飾系の男性を探して富山の街に出た。

男性の服、靴、アクセサリーなどを扱う富山市総曲輪の「Car Nation(カーネーション)」。

街角 ウオッチ

いまどきの性差編

夕方、ひらひらした丈の長い上着を翻し、アスレチックやピアスといったアクセサリーを身に付けた男性が次々来店した。

注目されたい

24歳の会社員の男性(射水市)は「洋服代は多くときで給料の8割」と話す。耳元で黒いピアスが揺れている。友人にあきれられるほど高価な洋服も買うが、「それだけの価値があると思っているから」ときっぱり言い切った。「その時、場所に合わせて服を選ぶのが楽しい。自己満足やね」

居合わせた23歳の会社員の男性(高岡市)も「完全に自己満足」どろどろ。猛暑続きのこの夏も毎日、重ね着。30度を超えたこの日も、3枚重ねて着ていた。「重

装飾系男子

洋服代「給料の8割」



「自分らの感覚としては普通だけど、ビックリされることもあるね」。30度を超える暑さの中、取材に応じてくれた装飾系男子＝富山市総曲輪

ね着「クール自分、なんです」と言う。真冬でも生足でミニスカートをはく、女子高生にも共通した「おしゃれ魂」を感じた。

この23歳男性は人と違ってくることを求め、女性のファッションも勉強中だ。良い意味でも悪い意味でも注目されることらしいという。「ルックスがいい人なんてごまんといる。自分で選んだファッションで『何あれ!』って印象付けたい」

興味は自分

富山市出身の服飾史家、中野香織さんは「男性が身を飾る喜びに目覚めても、全く不思議ではない」と言う。中野さんによると、本来、富や権力、性的魅力を誇示するようになり身を飾ってきたのは女性よりもむしろ男性だった。19世紀半ばにスーツが登場し、着飾った女性が男性の富の象徴となる関係が生ま

れたという。自立した女性が増え、草食男子まで登場する現代、そんな男女の関係は変わりつつある。装飾男子も時代の流れで「復活」したのだろうか。だが、中野さんは「装飾男子の興味は自分。かつてのように、女性を見たいように思う」と指摘する。

21歳の会社員の男性(富山市)は「男だからそりやもてたいけど、女性の目を意識すると好きになんない」と胸の囚を明かす。友人には草食系とも言われるそうだ。「好きなもんはしょうがない。自分を捨てずに、これからは着たい物を着ます」と宣言した。

装飾系の本音はなげくところが多かった。女性のミニスカートやショートパンツは、必ずしも男性へのアピールで着ている訳ではない。おしゃれであり、自己表現の手段という人は少なくない。

中野さんは「装飾系男子は一部のマニアが目立ったが、今後『ふつと』に肌や髪を手入れし、身ぎれいになる男性はますます増える。話題にもならなくなるほど落ち着くのではないかと予想する。

紳士服のモリワワールド富山本店(同市今泉西部町)では、スーツに付けるアクセサリーの売り上げが3エ、2年で伸びている。その口付けるシルバーのボタンの付いた「タイピン」などさりげない光り物だ。装飾系の情熱を秘めた男性は、ひそかに増殖中なのかもしれない。

(文化部・松下奈々)

◇
次回は「スーツ男子」を紹介します。